



SSH 千葉県立柏高等学校

～2020年は創立50周年～



ケンカシだより 第2号

令和元年9月3日発行

令和元年度行事予定

黎明祭（文化祭） 令和元年9月 7日（土）、 8日（日）
体育祭 令和元年9月20日（金）

ケンカシホームページ

ケンカシでは、学校の様子をホームページに掲載し、日々更新することにより、情報発信に努めています。（ケンカシホームページアドレス <https://cms1.chiba-c.ed.jp/kashiwa-h/>）

入学式

4月9日（火）に、普通科第50回、理数科第49回の入学式を行いました。担任の呼名に、大きな声で答える生徒たちを見て、ケンカシでの3年間で、前を向いて十分に頑張っていくのだろうと思いました。



私が式辞で話したのは、次のとおりです。

.....

大地に生命の萌え出づる春。この佳き日に、御来賓として、開かれた学校づくり委員会委員長柴田淳様をはじめ、地元・地域から多くの皆様方の御臨席を賜り、ここに平成31年度千葉県立柏高等学校入学式を挙行できますことは、本校教職員一同大きな喜びとするところであります。御臨席を賜りました皆様に、厚く御礼申し上げます。

新入生の皆さん、「入学おめでとう」。今日から、この県立柏高等学校が、皆さんの母校です。

本校は昭和45年に開校して以来、国内外の様々な分野で活躍する幾多の有為な人材を送り出してまいりました。広く「ケンカシ」の愛称で知られる、県下有数の進学校です。

本校は「健全」「謙虚」「誠実」を教育方針の柱とし「勉学、部活、学校行事」に主体的に取り組む生徒と、熱心に指導に当たる教職員が一丸となって日々、充実した教育活動を展開しています。

平成28年度から、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクールの三回目の指定を受け、理数教育の充実に力を入れています。また、平成27年度からは千葉県教育委員会から「進学指導重点校」の指定を受け、生徒の進路実現を図るべく、全ての教職員が懸命に取り組んでいるところです。こうした本校の歴史や伝統に加えて、先進的で特色ある教育活動に、新入生の皆さん自身が積極的に取り組み、豊かな教養と人間性を培い、社会に大きく貢献する人間として成長してほしいと強く思います。

そこで、本日もたく「ケンカシ生」となられた皆さんに、これから始まる本校3年間の学校生活における「行動指針」を三つお話しいたします。

「勉学に粘り強く取り組むこと」。「友人と切磋琢磨すること」。「地域の中にある学校との意識をもつこと」です。

まず、一つ目の「勉学に粘り強く取り組むこと」ですが、高校生活においては、勉学が一番の柱です。本校では、生徒一人ひとりが真剣に授業に臨み、教職員はそれに答えるべく授業力の向上に日々努めています。昨年度の卒業生の、国公立大学の合格者34名。難関私立大学にも多数合格しております。皆さんは、まず何よりも本校での全ての授業を通して、自分の頭で物事を考え、問題を解決していく能力を養い、自分の考えを伝える力や、問題を解決するまでやり通すという気力も身に付けて

ほしいと思います。

高校の授業は中学校の時までとは異なり、内容も専門的で高度になります。勉学に取り組むことはたやすいものではありません。しかし、幅広く、かつ粘り強く深く学ぶことで、自分の将来の進路が見えてくるのです。皆さんにはぜひとも、全ての教科の授業に本気で取り組むとともに、ネットやスマホの過度な利用で時間を浪費しないよう心がけ、自己のもつ可能性を最大限に高めてほしいと強く望みます。

次に、二つ目の「友人と切磋琢磨すること」についてです。自己の能力や可能性を高め、目標を実現することは、個人の力だけではできません。人間個々の能力は、他者からの刺激や影響を受けて磨き上げられていくものです。向上心もそこから生まれます。また、友人や仲間と関わることで、よりよい人間関係を築く力やコミュニケーション力も身に付きます。ケンカシは、多才な能力をもつ仲間がクラスに沢山いますし、部活動や学校行事がとても盛んです。そうした環境の中で、お互いを高め合い、他者の立場や状況を慮って行動し、相互にプラスの影響を与え合うよう努力してください。

最後に、三つ目の「地域の中にある学校との意識をもつこと」についてです。ケンカシは県立高校ですが、その創設に当たっては地元・柏市の並々ならぬ努力があって、開校に至ったという経緯があります。ケンカシの開校に御尽力された当時の山澤諒太郎・柏市長は、県柏の開校を心から喜ばれ、特別教室棟に校章を寄贈してくださいました。いまでも燦然と輝いています。柏市だけではなく、本校は地元・利根町会や富勢地区の方々にも、大変お世話になっています。ケンカシ生の自転車通学の割合は98パーセントであり、通学路には、特に注意が必要な箇所も見られます。そのような状況の中、地域の方が毎日、身を粉にして交通安全指導に当たってくださっています。「ケンカシ生、3年間は地域の子」という温かい思い・期待に応えるためにも、皆さんには交通ルールや自転車マナーを守ること、あいさつやきちんとした服装に努め、地域社会への奉仕や貢献も大切にしてほしいと思います。

保護者の皆様。お子様の御入学、誠にありがとうございます。心からお祝いを申し上げます。

本日からお子様をお預かりいたします。

私ども教職員は全力で、生徒一人ひとりの進路実現に向け、努力してまいります。教育は生徒自らの向上しようという意欲、そして私ども教職員と保護者の皆様の協力体制があって、初めて実を結びます。高校時代は、心身の成長著しく、それだけに、人間関係や生き方についての葛藤も深まる時期です。我々教職員と保護者の皆様との連携を密にして、しっかりと子どもたちを支えてまいりたいと存じます。どうか保護者の皆様には、本校の教育に対する御理解と御協力を賜り、御家庭でのお子様への教育とサポートを、よろしくお願いいたします。

結びに、御来賓の皆様をはじめ御列席の皆様方の益々の御健勝と御発展、そして新入生の皆さんの、本校3年間の学校生活が心身ともに健康で、実り多きものとなるよう心より祈念し、式辞といたします。

開かれた学校づくり委員会

6月12日(水)に第1回目の「開かれた学校づくり委員会」が行われました。利根町会の坂口会長さんも、委員として出席していただいています。

まず、午後0時50分から、昼休みに行われている各クラスの合唱コンクールの練習風景を見ていただきました。職員チームが練習していた会議室にも来ていただきましたが、委員の方から、「生徒の歌声がすばらしい。」「職員のチームワークがよいですね。」との言葉をかけていただきました。とてもうれしく思いました。

午後1時30分からの「開かれた学校づくり委員会」では、学校側から、ケンカシの現状、学校経営方針、学校の課題、取組、成果について説明し、各委員から、質問や意見をいただきました。

坂口会長を含め、委員の皆様いただいた貴重なご意見は、全職員で情報を共有し、ケンカシが発展するよう、努めてまいります。



小学校算数教室

ケンカシでは、富勢小学校、富勢西小学校、富勢東小学校、松葉第一小学校、松葉第二小学校で、「小学校算数教室」を行っています。また、松葉中学校で、「サマースタディスクール」を実施し、児童・生徒との交流を行っています。

7月24日（水）に、富勢西小学校の「小学校算数教室」を観に行きました。

富勢西小学校では、7月24日（水）から26日（金）までの3日間、午前10時から午前11時30分までの時間帯（途中休み時間が入ります）で実施します。

1日あたり、60名弱のケンカシ生徒が富勢西小学校を訪れ、児童たちとの交流を行います。

昨年度は最終日に富勢西小学校を訪れ、ある児童に「先生、来年も来てくれる？」と聞かれていたケンカシ生徒がいたことを思い出しました。

最初に、富勢西小学校校長先生と担当の先生から、この行事を行うにあたっての心構え等について、話していただきました。とにかく、児童たちがわかるようになり、勉強が楽しいと感じてくれることが大切です。

次のような話もいただきました。

- ・5つの会場の、それぞれの担当職員の指示に従うこと。
- ・高校生ではなく、先生という立場で接すること。
- ・くれぐれも体調に気をつけること。

1，2年生が、コンピュータ教室で、3年生から6年生までは、それぞれのクラスで「算数教室」が行われました。

1年生は「足し算」、2年生は「時間と時刻」、「計算問題」、3年生は「計算問題」、「時間と時刻」、4年生は「折れ線グラフ」、「角度」、5年生は「小数のかけ算」、6年生は「円の面積」の問題から解き始めていました。

児童たちは皆、本当に前向きに取り組み、どんどんプリントの問題を解いていきます。感心しました。ケンカシ生徒はその様子を見守りつつ、児童のプリントの丸つけをします。また、児童が立ち止まったときに、あるいは、悩んでいるのではと思ったときに、児童に説明し、理解させることを試みていました。富勢西小児童とケンカシ生徒の交流は、見ていて、とても好感の持てるものでした。

ずいぶん仲良くなって、休み時間はとても楽しそうに会話をしている児童と生徒の姿もよかったです。

ケンカシ生徒にとって、とても有意義な時間になることと思います。



利根町会納涼大会

8月24日（土）午後5時から、ケンカシの近くの堂ノ下公園で、利根町会の「納涼大会」が行われました。2名の教頭とともに、堂ノ下公園を訪れました。

「校長先生、よく来てくれたね。」と、地域の何名もの方から声をかけていただきました。何名もの方々と握手をさせていただきました。地域の方から「校長日誌」を見てますよ。」との言葉をいただいたときには、びっくりするとともに、本当にありがたいと思いました。

今回の納涼大会に参加した吹奏楽部生徒は、皆1年生です。

地域の方から、「吹奏楽部が来てくれるようになった最初は、1，2年合同だったけれど、次の年からは、1年生のみで演奏することになった。」と教えていただきました。歴史の1ページを知ることができました。

今年も2回のアンコールをいただきました。アンコール曲は、ケンカシ吹奏楽部伝統の「ダンシングメガヒット」です。大変盛り上がりいただけたと思います。

吹奏楽部の生徒たちは、輪の中での踊りに参加させていただきました。生徒たちも踊ってよいのだという、温かい雰囲気があってこそこのことです。ありがたいです。また、そのような雰囲気の中に、今回参加した吹奏楽部の生徒全員が、また、見に来てくれていた2年生の女子生徒が、一緒に入り込んでくれることにも、うれしさを感じます。本当によい子たちだなあと感じます。吹奏楽部顧問も汗をかきながら、一緒に踊っていました。私も来年は、一緒に踊りたいものだと考えています。

ケンカシの生徒は、いつも地域の皆様に温かい目で見守っていただいています。ケンカシが地域に支えられた学校であることを実感することのできた「納涼大会」となりました。

本当にありがとうございました。

